

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370200475		
法人名	有限会社 レジデンシャルケア		
事業所名	レジデンシャルケア 徳川町		
所在地	名古屋市東区徳川町 2714		
自己評価作成日	平成22年1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kai gokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オーナーが育った場所にホームは建ち、地域との交流を大切にしている。地下駐車場があり、居間や居室、廊下、浴室など広々としてゆったりと寛ぐ事ができる。家庭菜園では、季節の野菜等を植えて収穫の楽しみを支援している。置下には災害用品や季節用品を保管している。職員は「目配り・気配り・心配り」をモットーに家庭的な雰囲気の中で関わりを大切にその人らしい生活が出来るよう人員配置に余裕を持たせ心に寄り添うケアを目指している。ご利用者様と関わっている職員が話し合いを行ない、介護計画を立案し、計画作成担当者が作成している。衛生管理のために洗面所には殺菌効果のあるドクターエアータオルを設置し、水は全館パイウォーターを使用している。アロマランプを焚き、空気の除菌、清浄に努め、リラクセス効果を高めている。どなたでも気楽に訪問できる環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念の元、ゆったりとした雰囲気です利用者一人ひとりのペースで生活できるように寄り添っている。日々の日課もその日の利用者の体調、天候、希望にあわせその日に職員が決めることとなっている。近所に散歩に出かけたり、食事のメニューも利用者の希望を取り入れる工夫をしながら、できるだけその人らしい生活ができるように支援している。ホームの立地が経営者が育った場所ということもあり、昔からの地域とのつながりを生かしつつ、さらに交流を図り地域に根ざしたホームとなってきている。利用者も近隣からの入居が多く、家族との連携に日々努め、家族にも積極的に運営推進会議等に参加してもらえ環境をつくり、要望や意見交換を行い、職員、地域、利用者・家族でサービスの質をより高めるように努力しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく支援を行ない、毎朝職員が唱和をしていることで、意識付けを行なっている。理念を共有し、ご利用者一人ひとりが役割や楽しみを持っていただけるように日々計画を立てて毎日カンファレンスをしている。	「目配り 気配り 心配り 心に寄り添うケアを」を理念として掲げている。理念を職員が理解し、その日その日の利用者の体調や、天気にあわせ柔軟に日々の計画を立案している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事に参加している。廃品回収へは、ご利用者が新聞や広告を束ねてくださる。近隣のスーパーや公園へ外出をして馴染みの関係を作っている。事業所周辺の清掃を通じて交流をしている。	毎日近所のスーパーに買い物に行ったり、公園へ散歩に行ったり、朝夕でホームの前を掃除し、近所の人と挨拶を交わしたり雑談をしたり交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に地域の協力の下に取り組みさせていただいて、運営推進会議では地域代表の方々へ認知症の理解と情報の伝達をするとともに地域包括支援センター、民生委員の方々と連携をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動内容や行事の報告をして、テーマを決めて話し合い、ご意見や感想を述べていただき、施設運営、介護サービスに活かしている。また、会議内容を議事録として職員に周知徹底している。	運営推進会議には有識者・利用者家族の参加も多く、活発な意見交換の場となっている。また意見や感想を運営や日常業務の中で活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方へも運営推進会議へ参加していただき、連携をとっている。また、市や区を訪問して助言や情報を提供していただいている。良好な協力関係に努めている。	市区担当者との連携を絶えず行い、助言をもらっている。保健所に食事の献立の相談をし、助言をもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会を通じ、全職員が身体拘束をしないケアの実践について理解をしている。安全な暮らしが出来るように職員間で統一したケアをしている。居室には施錠はせず、玄関は交通量の多い地域のため家族の了解の下施錠している。	勉強会を行い、職員全員で理解する仕組みがある。また必要時には、個別に職員会議において検討をしている。地下1階地上2建ての一階に玄関があり無人のため、玄関は施錠している。	施錠しなくてもいい仕組みについて話し合いを重ねることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、全職員が防止に努めている。毎日のカンファレンスを活用して、トラブルを未然に防ぐ為に話し合っている。安全・安心を第一に考えて接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護について、学習会を行い理解をしている。必要とされるご利用者は活用をして、職員や管理者との話し合いを年に数回行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できる限り十分に説明を行ない、誤解が生じないように気を配り、確認していただいている。ご利用者やご家族の不安や疑問点を十分に話しが出来るように働きかけて納得をしていただいているから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族の方々の意見・要望を表せる環境を整えており、運営にも反映できるように努めている。また、職員ならびに市区の相談窓口の説明をしている。	面会や運営推進会議に参加する家族が多く、発言の機会を設けている。オムツやイベントへの参加費等について家族からでた意見を検討し、実施したことがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議においても、ケア以外にも運営的な議題を設け、職員が意見を述べられるようになっている。毎日のカンファレンスの提案を聞く機会を代表者や管理者は設けている。	会議や日常の業務の中で改善に対する意見が出たら、管理者が中心となり運営に反映させている。管理者が現場にあり、対応が早いことで、職員も意見の言いやすい環境ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題点や疑問点に対処し、個々の能力や実績に応じて向上心を持って働ける環境に配慮している。研修などへも積極的に参加をしている。給与形態表を作成をしている。実績に応じて表彰の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握して、細部まで行き届くように内部研修を行なっている。外部研修にも積極的に参加させ、施設内の研修へと役立てて、実績を積んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流をもち、他のグループホームからの訪問、意見交換、情報交換をして交流を図っている。他の施設や研修に参加した職員が全職員に向けて勉強会を開催して、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の時点でゆっくりと時間をかけ心情を表出できるように努め、カンファレンスで話し合い、センター方式アセスメントを全職員が考え、理解をしてご本人が困っていること、不安なことを受け止めることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時から入居に至るまでご家族へ理念や生活の説明をして、不安や要望などを聞き入れている。また、安心で安全なサービス提供ができるようにゆっくりと時間をかけて話の出来る環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聴きいれて、必要性を考慮して対応しています。必要時には他のサービス利用を進めると同時に希望される場合に連絡をとるなどの援助をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して過ごせるように、関わりを大切に本人の出来ることを最大限に発揮し、共感の関係を築き、一人ひとりの悩みを解決できるように支援をしている。本人を尊重し対応し、お互いを支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と積極的に話し合い、情報を交換している。また、変化のある時には現状を話し合い、一緒に支援をしている。関係を密にしてイベントへも積極的に声をかけて参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた友人や知人、なじみの人の訪問は、常に受け入れる体制でいる。外出の際や日々の会話の中で場所や名前を忘れないように支援をしている。また、イベントへの参加も声をかけている。	知人友人がゆっくりと訪れることができる雰囲気づくりをしている。友人が音楽療法と一緒に参加することもある。また墓参り、結婚式、法事に参加できるように家族と協力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用のスペースでも良好な関係が作れるように、洗濯物たたみ・干し・食器拭き・掃除などを通じてご利用者同士が関わり合い、支え合う関係を作り、コミュニケーションが図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者とその家族と連絡をとり合い関係を大切にしている。手紙や電話、面会に行くなどして関係を保ち、その後も相談や必要な支援もさせていただいている。訪問をしてくださる方もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、個々の生活を送れるように個人の意思や希望を尊重し、関わりを密に取り、把握に努めている。また、困難な場合に遭遇した場合は本人の立場になって、全職員で考え対応できる体制を作っている。	職員はカンファレンスやミーティングで利用者一人ひとりの思いや意向について話し合っている。ケアアセスメントで利用者がどんな表情をしているか等を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄のご本人の暮らしぶりやお好きな食べ物、趣向、病歴、現在の状況、家族構成、生活背景を職員間で情報を共有し、把握できる体制を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活の中で心身状態の変化などをしっかりと把握し支援をしている。職員が共有する為にも日々のカンファレンスで話し合い、ご本人の状態に合ったケアが出来るように、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らす為に、心身の状態に沿って、アセスメントシートを作成して、介護計画の意見、アイデアを、カンファレンスやミーティングで話し合いを行ない、ご本人に沿った計画を作成している。	介護計画の見直しは3か月ごとである。協力医の意見や家族の意見と要望を取り入れ、また家族来訪時によく話しを聴き作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員がご利用者に対して同じサービスの提供ができるように個別記録に記入して、日報やカンファレンスの記録から情報を共有している。それによって、介護計画の見直しにも生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人を尊重して、個々に合ったケアをすることを全職員が理解をして対応する為に、ご利用者の変化に伴い、ご家族と相談をしながらご利用者にとって有効なサービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員の訪問、消防署参加の防災訓練をしたり、警察にも当ホームの存在を認識していただいている。地域のボランティアに来ていただき、中学生の職場体験等の受け入れをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望する病院に受診できるように支援をしている。また、月に2回の内科医の往診を受け、24時間対応でき、歯科医による診察も受けられ適切な医療が受けられる体制を整えている。	18名中8名が入居前のかかりつけ医である。通院時には、毎日の健康状態を詳細に記録した表をホームで作成し家族に渡している。医師に普段の状況が伝わり、投薬等に活かされている。家族に好評である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に一度の協力医療機関の看護師より訪問があり、状況の変化を報告し、健康状態を把握していただき、24時間相談ができる体制が整っている。緊急時には適切な医療を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際には、ご本人とご家族が安心して治療を受けられるように、情報の交換をしている。こまめに面会へ行き、現状を聴くとともに早期退院できるように支援をしている。担当医・看護師・ご家族との関係作りを密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて今後の過ごし方を考えて、できるだけ早い段階からご家族と話し合いを行ない、ご本人にとって最善の方法を関係者と協力をして支援をしている。また、事業所は方針を定めて、家族と同じ思いで対応の出来る体制作りを努めている。	入居時に書面にて確認している。協力医療機関がメディカルコーディネーターとして関わり、話し合いを持っている。ホームとしては、経口摂取が基本であると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の為のマニュアル作成と研修を行なっている。また、スタッフ間で緊急時の対応を話し合い、代表者や管理者は対応の出来る体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアル作成と、研修を全職員に行なっている。防災訓練を行い、消防署より施設内点検、指導も受けて全職員が理解できるように説明をしている。地域の消防団とも連携をとっている。	消防設備のメンテナンスに合わせ、消防器具の取り扱い等の確認をしている。防災訓練では消防署の指導の下、職員が水消火器を使った訓練を行った。災害時対応マニュアルは昼・夜想定でそれぞれ作成され、職員全員で確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者へ尊敬の意を持ち、接するよう心掛け、一人ひとりのペースを大切にしている。また、ご利用者の尊厳を大切に言葉かけや着替えなどでもカーテンや戸を閉めるなどプライバシーの保護に努めている。	マナー講習をするなど、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を心がけている。利用者に対して不適切な対応があれば、個別に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりから、ご本人の希望を尊重し、自己決定していただけるように話しやすい環境を整えている。問いかけや日々の関わりを大切に、安心して暮らせるように本人の気持ちを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に、一人ひとりの生活のリズムやペースに合わせて日常生活を送れるように、支援をしています。理念に基づいての支援に努めて、散歩や買物、理容店などの希望に添えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みを尊重して身だしなみの援助を行っている。化粧や髭剃りが毎日行なえるように支援をしている。訪問美容の方によりカットしていただいたり、希望の理容店でカットできるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りやテーブル拭き、食器拭きを一緒に行なっている。一緒にメニューを考え買物へ行き楽しく食事ができるように食事中は音楽をかけて、見た目でも楽しめるように盛り付けにも配慮をしている。	生協の配達を利用しており、職員と利用者が写真入りの商品案内を見ながら、メニューや購入するものを一緒に考えることもある。利用者の中には味噌汁を作ったり、食材の下ごしらえをする人もいる。食事は利用者と職員が一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、柔らかさ、刻み、トロミをつけ、ミキサーにかける等様々に対応が出来るように配慮をしている。また、食事量、水分量の把握記録をしている。管理栄養士にアドバイスをいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。介助の必要な方には必ず付き添うように配慮をしている。義歯はスタッフが預かり、洗浄をしている。歯科医師の訪問があり、随時ブラッシングの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、状況に応じた排泄支援を行なっている。また、トイレでの排泄やおむつから自立への支援をしている。	夜間のトイレ誘導により失禁はほとんどない。体操や食事、飲み物で排便コントロールを行っている。薬に安易に頼らない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに補給できるように工夫をして、摂取して頂いている。米に麦や15穀米などを混ぜて、毎日食物繊維を多くとられるように食事などでも配慮している。体操は個別にもメニューを作成して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に3回は入浴が出来るように工夫をして、好みに合わせた入浴剤を入れて、言葉かけにも配慮をして入浴をしていただいている。	入浴が億劫な利用者が多く、声を掛けるタイミングや職員を変えたりするなど対応を工夫している。時には清拭や足浴での対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調管理に気を配り、疲労感や体調不良の際やご本人が希望される時には休めるように配慮をしている。夜間安眠できるように、日中楽しみのもてるレクリエーションや体操、外出など積極的に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員が把握し、常に説明書にて確認できる体制を整えている。変更時には全職員に伝わるように努め、症状の変化に気づいた際には医師に相談をするなどして適切な対処の出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの特性を生かして、洗濯物たたみや食器拭き、掃除などをしていただいています。役割や楽しみがもてるように、安心して過ごせる居場所を持つていただけるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのイベントを大切にして、喫茶、公園へ散歩、ドライブに外出している。近隣にスーパーがある事から歩いて一緒に出かけ、外出ができるように努めている。家族の協力を得られるように声をかけさせていたしている。	利用者家族に協力をお願いし、東山公園、名古屋港水族館、名城公園、花見等へユニットごとに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望されている方に限り金銭の所持をしていただいている。それ以外の方は紛失防止の為に所持しておりません。必要とした場合に使えるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話があった際は取り次いでいる。また、希望や状況に応じてかけられて幸せな気持ちになっていただけるように支援をしている。手紙のやりとりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にして四季折々の花や飾り物をして、清潔感のある環境を整えている。温度、湿度に気を配り、心地良く過ごせるように努めている。不快な音をださないように気を配り、臭いにはアロマランプを焚いている。	リビングには畳スペースやソファがあり、寛ぐことができる。リビングや廊下は広くゆったりした造りである。利用者が居心地よく過ごせるように利用者にとって懐かしい歌をかけるなどしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやマッサージチェア、畳スペースがあり、共用のスペースでリラックスの出来るように配慮をして、常時お好みの場所で過ごす事できるように、心地の良い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使っていた物、使い慣れた物を持参していただき、居心地良く過ごせるように工夫をしている。ご本人の状態によって、過ごしやすいようにベッドの位置や模様替えを工夫している。	利用者の使い慣れた家具が持ち込まれ、家族の写真や誕生日の寄せ書き、利用者の作品が飾られている。ベッドの布団をきちんとたたんで置いている人、ベッドメイキングしてある人、それぞれが自分の居心地よく工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全安心な生活を送る為に家具等の位置に配慮をし、手すりが備え付けてある。各居室には表札を掲げ、ご本人が自立した生活を送られるように支援をしている。また、動線に障害物を置かないようにしている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	経営者が育ったところにホームが立っているため地域との交流も盛んであり、大切にしている。自治会に加入し、地域の行事に参加している。また学区から誘いのある敬老会にも参加して、こちらから出向くことができないときは持ってきてくれることもある。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	2ヶ月に一度開かれており、利用者・家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、有識者として医師、歯科医、薬剤師等が参加し、活発な意見交換が行われている。また意見、要望は運営に反映するようにされている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市や区を訪問して意見交換、助言や情報を提供してもらっている。良好な協力関係に努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	運営推進会議に参加する家族が多く、発言の機会を設けている。また面会時に活発に家族との意見交換を行うことができるように日ごろ職員間での情報の共有に努めている。オムツやイベントへの参加費等について家族から意見が出て検討し、実施したことがある。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームを立ち上げる前からの地域とのつながりを活かして、さらにグループホームとして地域に根ざす取り組みを行っている。職員の情報共有が徹底されており、どの職員にも相談できる体制となっている。利用者アンケートでコミュニケーションがとりやすいとの評価を得ている。運営推進会議でも家族、有識者、地域住民が多く参加し活発な意見交換を行い日ごろのケアサービス、運営に反映している。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。